



第4回 交流会

◆ 一句ひねろか絵手紙描こか、なんでもかんでも虫眼鏡



〈一句ひねろか絵手紙描こか、なんでもかんでも虫眼鏡〉と、調子はいいのですが、ここには盛りだくさんのテーマが含まれているのです。

幸い晴天に恵まれ、参加者は11人。始まりは、小網代の森を守る会以来、数年ぶりの参加となるTさん、20数年ぶりに森に入るといふ長年の応援団のHさんとの感動的な再会でした。

配られた虫眼鏡と俳句用の紙を持って、いざ森へ。

クサギは花も終わり、紫のがくと青い実が美しい。

カントウヨメナ、アキノタムラソウ、ミゾソバ、満開。

迷い込んだように1頭のアサギマダラが飛んで。南へ移動する群れからはぐれちゃったの？

カラスザンショの葉先のモヤモヤは何だ？ クモの巣ではないようだけど。

あそこに並んでるのはだれの落とし物だろう？ 一つはアライグマ、もう一方のくねくねしたのは、まさか蛇の糞じゃないよね。 アハハ！

その都度立ち止まっては、解説、講釈入り乱れ、五七五の言葉も少しずつ溜まっています。

虫眼鏡で見れば、地味いなイネ科のチヂミザサも今を盛りと花粉にまみれ、ミゾソバの小さな花も大迫力。

正午過ぎ、ようやくヤナギテラスに到着！ 津波避難路側スペースで小休止、そして絵手紙に挑戦しました。皆さま集中して小半時、スタッフのMさんお手製の消しゴムはんこで落款まで。 作品の値打ちが上がってニンマリ笑顔に。

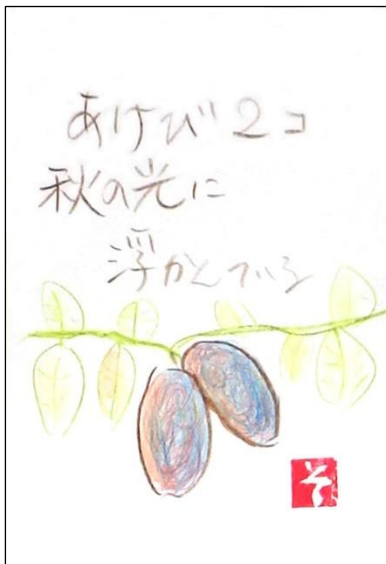
銀の穂がゆれるオギの原、ガマの穂を見ながら13時エノキテラスに到着、やっとお弁当にありつきました。いつものようにお菓子の袋がいくつもぐるぐる回ってお腹がいっぱいになったところで、俳句のご披露。 一人ずつ三つの袋から、五七五とくじを引くように三枚選んでつなげていきます。一句ずつ読み上げては、講評、珍説も飛び交います。 いや笑った笑った！ 最後はスタッフのHさ

ん特製フレームをプレゼントされ、さらに一段値打ちの上がった額縁入り絵手紙を見せ合って、記念写真を撮りました。

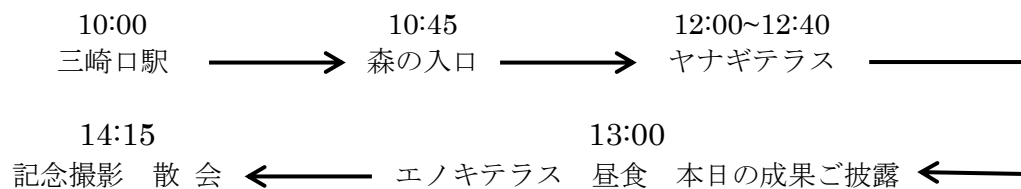
14時すぎエノキテラスで解散。 全員が来た道をゆっくりとたどって、帰途につきました。

(記 松原あかね)

●●●● 絵てがみ 作品展 ●●●●



今日のコース



●●●● 絵てがみ作成中 ●●●●



●●●● 迷句づくり ●●●●



(写真 浪本晴美)

 迷句のご披露

スズメ蜂	キノコ汁	うろこぐも	すずめうり	みあげると	タコノアシ	木もれびの	女郎ぐも	むらさきの	こあじろの	空高く	初参加	源流に	イラクサを	秋の顔	ふきの葉が	ワルナスビ	アケビ2コ	ゴンスイに
またぎもん	カラスザンショウの葉に	カラスザンショウ	なぞの物体	星の野花に	ずずとつらなる	ほつ紅おいて	風のゆりかご	藪刈りの夏	アサギマダラは	食べられるのか	悪くなる気は	ソコと吹く風	赤きうよう	ふんにくわしい	三角帽子	クサギの赤に	正体見たり	ヌスビトハギを
きのこの輪	だれのふん	おいしそう	あめんぼの	迷句なり	土用の日	きづかずに	おみやげに	スヤスヤと	空に浮く	水流る	切りのこず	たこのあし	ミズヒキ草	おとしもの	落ち葉舞う	ちょう舞い	ふんくらべ	銀の穂に

 寸評

- 1席 偶然完璧でしたので賞 **こあじろの アサギマダラは 空に浮く**
 とっても寄せ集めで出来た句とは思えないくらい完成度の高い句。しかも参加者全員が旅蝶のアサギマダラをみえています。
- 2席 意味深で賞 **木もれびの ほお紅おいて きづかずに**
 気づかずとは言っても 木漏れ日は 誰かさんの頬を赤く染めた瞬間を切り取ったのだ。
- 3席 ユーモア溢れで賞 **秋の顔 ふんにくわしい おとしもの**
 何だかあけびの実が糞になって落ちている場とそれを覗き込んでいる私達を想像させます。
- 4席 秋で賞 **ふきの葉が 三角帽子 落ち葉舞う**
 情景が目浮かぶ秀作です。
- 次点 イメージ沸くで賞 **アケビ2コ 正体見たり ふんくらべ**
 次点 満腹で賞 **うろこぐも カラスザンショウ おいしそう**

 ご参加の皆さまに感想をいただきました

- ゆったりペースで、楽しく、すばらしい自然に接することが出来、とても貴重な体験をさせていただきました。カラスザンショウ、ミゾソバ、カヤなど、植物の姿と名前が一つになりました。ありがとうございました。 H.F
- 皆さんのあとからついて歩いて、楽しい一日を過ごすことができました。ありがとうございました。絵手紙、迷句、虫眼鏡のアイデアすばらしい。 S.T
- ゆっくりと歩くと、新しい発見と楽しみがある。 H.N
- お天気も良くて、おしゃべりしながら、虫や草の名前をいいながら歩いて、のんびり、ゆったり、楽しかったです。 Y.M
- たのしかった～!! こあじろの顔は毎回かわるけど、楽しい仲間はいつもどおり、笑顔のたえないひとときでした。準備ありがとうございました。 K.S
- 秋のやわらかい日差しとこちよい北からの風、迷句考え、苦手な絵手紙の宿題も終わり、アキアカネ、キタキチョウ、ミゾソバ、オギなどの秋の常連にめぐりあって幸せ、時間のたつのも忘れるくらいの交流会でした。 K.S

三浦半島の植物

今回は 2010 年 11 月の作品「キチジョウソウ」をご紹介します。

釈迦が菩提樹の下で悟りを開いたとき、敷物にしていたのがこの吉祥草、仏さまたちの敷物です。

冬枯れた草むらの中にこの赤い実をみつけると、何ともおめでたいような嬉しいような気持ちになりますね。



図録に載せるかのように
細い輪郭の一本一本
光の向きで変わる
一色ひといろ
丁寧に重ねていく
小網代が命をそそいで
育んだ花だから
その命ごと写すのと
すきとおる微笑みで
伝えてくれた

画 野内眞理子
詩 中井由実

随想 代網小サロン

随想 小網代でんてん (24)

モズが枯木に

須田漢一

鳥が一羽、枯木に止まっていた。

海辺の広場から、観音崎公園の森を見上げたときだった。ここからでは、シルエットにしか見えない。

講師の先生が、三脚にセットしてくれた、望遠鏡をのぞかせてもらう。葉の落ちたエノキの細枝に止まっている、視野の中のモズは尾をゆつくりと回し、するどい(鋭い)目で一点をみつめている。そんなモズを観察していると、昭和十年、サトウハチロー作詞「百舌が枯木で」を思い出す。

百舌が枯木に 泣いている

おいらはわらを たたいてる

わたひき車は おばアさん

こつとん水車も まわつてる

みんな去年と 同じだよ

けれども足無え ものがある

兄さの薪割る 音が無え

バツサリ薪割る 音が無え

— 以下略 —

今、モズの鳴き声は聞こえないが、哀調をこめたこの歌は、戦前、岩手で唄われていたものを戦後、茨城の教諭、徳富繁が曲をつけ、県内にひろまった。

モズは公園、林の中、低山に留鳥として生息し、枯れた枝や電線などにとまり、地上のえものを発見すると、さつと降り、くわえ、枝にもどる。とらえたえものは、鋭^{とが}った枝や有刺鉄線に刺す「はやにえ」の習性が知られている。

秋から冬、一羽だけでなわばりを持つ。この時期、オスもメスも、若いモズも激しい戦いをくりひろげ、勝利者がなわばりを持つ。ようやく手に入れたそこへ侵入してくるものがあると、また戦う。

— 十一月、なわばり争いが終わって一羽きりが孤独な冬をむかえる。今から八〇年ほど前には「モズが枯木で」の世界があった。そこには静かな中にもさまざまな音があつた。モズの声をはじめとして、水車の音、薪を割る音、綿をつむぐ綿引き車の音、わらをたくアダジオがあつた。それらはじわつと自然のなかに、人の心に滲みこんでいく日常の音だった。

音は、今、オートバイやトラック、列車やヘリコプターの轟音の中に、いつとはなく消されていった。鳥の世界ではモズが変わって、カラスの勝ちほこった声、小鳥の鳴き声を打ち消している。古い記憶に重なるよう、音が音を消していく。

時代の流れ、といつてしまえばそれまでだが、私たちの聴覚はこれからどうなっていくのだろう。遠い、かすかな音を聞いた古代の人々の、カミの声を受け入れた、あの鋭さは失われた。私たちは補聴器を付けなければ、自然の中の音を聞きとれない生物に変わっていくのだろうか。もつとも、それは、何世代を経たあとでわかるものかも知れないが。

モズは枯木から離れない。

2014 11 / 8



サトウハチローの詩については

スタッフの宮本美織さんから教えていただきました。

サロン小網代 マララ・ユスフザイさんとパキスタン・ヒマラヤトレッキング



マララ・ユスフザイさん

2014年ノーベル平和賞を受賞した、史上最年少の少女17歳のマララ・ユスフザイさん。1997年7月12日、パキスタンの西北、アフガニスタンと国境を接するヒンズークシュ・ヒマラヤの登山口であるスワート生まれ。当時は、タリバンの武力勢力の支配下にあった地域である。

恐怖におびえながら生きる人たちの惨状を、イギリスBBC放送のブログへ投稿。当初は匿名でしたが、パキスタン政府の支援もあって実名で活動するようになった。女子教育に反発する武装勢力の攻撃対象になり、2012年10月9日、スクールバスで帰宅途中に襲撃され頭に重傷を負う。イギリスの病院へ運ばれて手術を受け奇跡的に回復した。

2013年7月12日、16歳の誕生日にニューヨークの国連本部で「・・・武器よりも1冊の本を下さい。教育こそが世界を変えられる解決策ですと訴えた・・・」。

パキスタン・ヒマラヤの登山基地であるスワート、なぜこんな危険な地域へ行ったかという、当時は全くそんな予備知識はなかったのである。当初、行き先はネパールヒマラヤで、ヒマラヤ^{ひまらや}麓を懸ける氷雪の峰々を望む、ヒマラヤ・トレッキングである。海外の山専門のA旅行社へ依頼することにした。マララさん生誕の約10年前のことである。

ところが出発直前、ネパールで国内政変が起きて入国禁止となったという。そこでA旅行社ではどう交渉したのか、代替えとしてパキスタン・ヒマラヤ4500メートル級のハードトレッキングを再提案してきたのである。現地ガイド等スタッフはパキスタン人、チーフは高所登山経験のあるネパール人が担当することになった。連絡官として陸軍将校が参加、ライフル銃武装したガードマン2人も同行することになり、それだけに現地情勢が不安だったのである。

パキスタン腹といって、この国へ入国する外国人たちが必ず体験する猛烈な下痢。水が合わないのである。私は幸いなことに、滞在中は快調でそんな気配は全くなく心配無用であった。PIAパキスタン航空・B747の機内サービスはアルコールナシ、乗務員全員、大柄で髭の男性たちであった。離陸直前、機内にはイスラームのコーランが流れる。

首都イスラマバードの風景、街中では成人女性の姿はなく白いシャルワールという民族衣装の男性ばかりで雑踏していた。生活日常品バザールの買い物等も全て男性で、成人女性はチャドルという顔だけ現した黒いムスリム(イスラーム教徒)の衣装を着用。自分の夫以外には素顔を見せないとして、常時在宅し外出は控えている。

この国最高級5ツ星のパールコンチネンタル・ホテルへ宿泊、コンシェルジュは女性であった。早朝、近くのモスクから高音声でアザーンという「早く起きて祈りにつきたまえ。礼拝は眠りにまさる・・・」という呼びかけがあり目覚める。

首都からバス10時間、登山基地であるマララさん誕生の地スワートへ着く。インダス河を渡り、西暦2、3世紀頃、仏像発祥の地であるガンダーラを経由する。

ヒンズークシュ・ヒマラヤ「最高峰はティリッチ・ミール7706メートル」を水源とするスワート川沿いには緑の水田が広がり、我が国の山地で見られる棚田の農村風景と同じである。宿泊を重ね、4000メートル地点にベースキャンプを設定。4500メートル級の無名峰を登り、峻険なヒマラヤ氷雪の峰々の展望を楽しんだ。

どこへ行っても、ワッと集まって来るのは男女の子供たちと髭の男性達である。街中では成人女性の姿は全く見ることなく、この国からは女性たちが消えたかと思った。

帰路、北京経由で成田行きのPIAパキスタン航空。中国国境に聳える、世界第2位の高峰K2(測量ポイント番号、Karakorum・2の略)「中国名チョゴリ」8611メートル。エベレスト8848メートルより峻険で、登頂がかなり困難といわれている。

機内から雲海上に遠望できて実に幸せであった。



パキスタン・スワートの子供たち

祖父川精治

小網代を詩う

セラピー

中井 由実

堀ノ内駅を過ぎると

品川から乗った快特電車は

各駅停車になる

一つ一つ階段を登るように

私を終点に運ぶ

町は緑地帯の色を深めていく

その景色は

どんなりラクゼーションセラピーよりも確実に

私の芯で硬直していた太い塊を

緩め ほぐしていく

首から肩、背中 of 筋肉まで柔らかくつながり

やがて 胸郭さえ軽く息を吸い込むようになった

なぜ もっと早く来なかったのだろう

こんなにも生き返れる場所に

ちっぽけな私が何を憂うことがあるろう
小網代は平気なんだ

人間がどこに木道を作っても

どこの笹を刈り広場を作っても

生きてみせろ

伸びてみせろ

私はずっとついていくから

新参者

中井 由実

久しぶりの小網代の森

入口で、門のように伸びる木々の上で

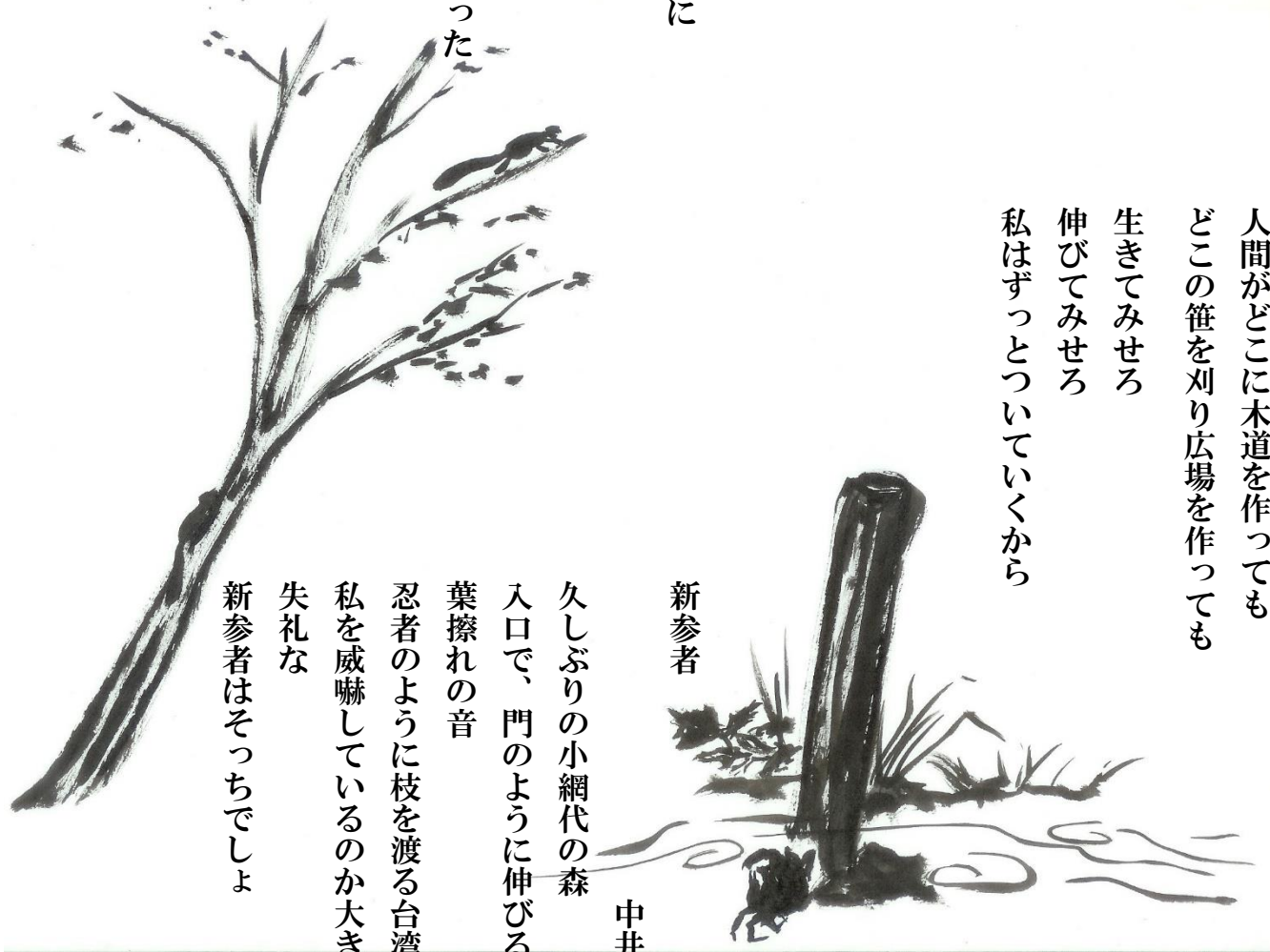
葉擦れの音

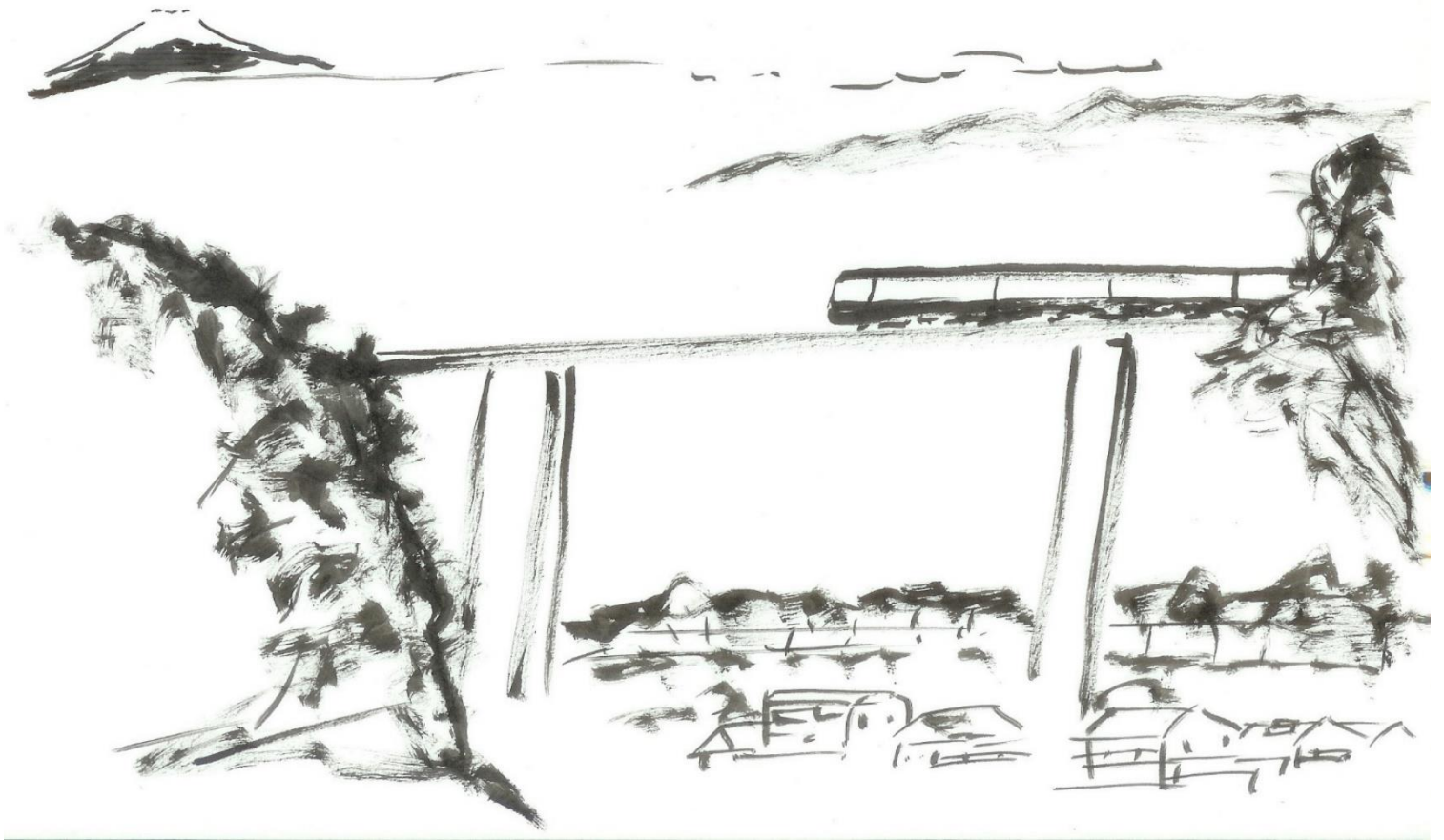
忍者のように枝を渡る台湾リスがいた

私を威嚇しているのか大きな声

失礼な

新参者はそっちでしょ





大丈夫

中井 由実

谷の木道を歩く

見下ろす流れの底に

モクズガニを探すのは難しい

大きなどんぐりが

固く冷たい音をたてて落ちてきた

その殻にひびが一本

私は何度も何度も 自分に言い聞かせた

ここは新しい自然地帯なんだ

新しい公園ができたんだからと

うつむいて向かったエノキテラス

周囲はススキとヨシの原っぱ

少し低くなった太陽が照らしだす

銀糸の群れの輝き

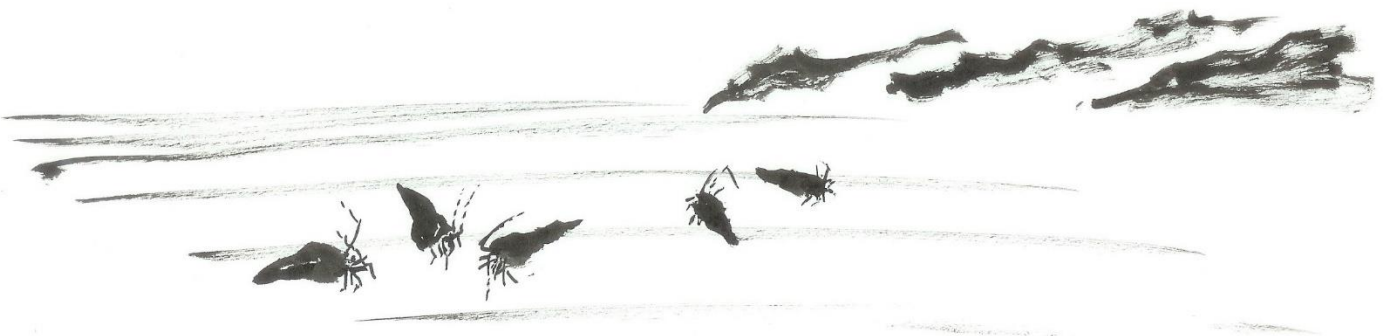
息を吞む初めての美しさ

満潮の湾奥まで来れば

水底を歩くヤドカリが

1個 また1個と動き出す

二十五年前と同じように



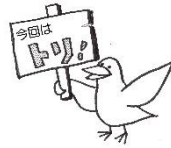
質問コーナー



みんなで考えよう感じよう！自分で考えよう！考えたらいっしょに言おう！

第5回

今回は・・・予告どおり **鳥の巻**



●鳥のメスには鳴き声があるのでしょうか？

(回答は森ネーム)



ふわら

あるよ～、なかったらお母さん鳥が雛を呼ぶとき困るよね。優しい声だよ～

●トリは、どうやって胸筋を鍛えているんだろう？



ミーちゃん

決まっています。腹筋を鍛える要領で いちに いちにと毎朝せつせと 餌をついばむのです。あれ！ニワトリさんだけではないのですよ。時には上を向いて、歩くので、首の筋肉も鍛えられます。そして、悲しみを雲の陰に追いやるのです。これ、本当。

コウノトリお母さんが教えてくれたよ。こうやって足を揃えて、ぴょんぴょん、パタパタ、ぴょんぴょん、パタパタパタ。頑張って練習していると、ふわーっと飛べるようになるんだって。毎日練習してるけど、ぼくはまだ飛べないよ！



ぼんぽこ

●トリの鳴き声には、種類がありますか？



ミーちゃん

「決まっています。鳥の種類別に鳴き声があります。みんな違ってみんないい。そんな世界が鳥の鳴き声の世界です。その上、繁殖期にオスがメスを誘う声はまた、違う魅力を発揮します。人と言えば昔、恋する人の窓の下で奏でるセレナーデというのに似ています。「アイネ、クライネ、ナハト、ムジーク 小さい夜の音楽」とでも言うのでしょうか。人の世界でもとりわけ有名な音楽です。幼い鳥の出す声についてはまたの機会に、という訳で、鳥の数ほどあるということです。これ本当。

はい問題です、誰の声か当てましょう。「1番 チャツ、チャツ」「2番 キキキキッキョッキョ」「3番 ホーホケキョ」分かるかな？
3番は分かったというタヌキさんも多いよね。実はこれ、ぜ～んぶウグイスさんなんです。
1番は笹鳴き、2番は谷渡り鳴き、3番がさえずりといいます。そしてね、男の子が大人になって、結婚の季節になると、ホーホケキョとさえずったり、谷渡り鳴きをしたりするんですよ。女の子は一年中、笹鳴きだけです。では、今日の授業はこれでおしまい。人間に見つからないように、気を付けて帰るんですよ。タヌキ汁にされちゃいますからね～。



ぼんぽこ
@タヌキの学校

●トリさんは、どうやってお友だちを見つけますか？



しいの実

鳴き声です。カラスを例にとると、お互いに声の強弱、長さなどでコミュニケーションを図っています。昔の忍者はそれを利用して敵の居場所をすばやく知って、身の安全を図ったといわれています。

有名な動物学者、ロレンツが既に答えを出しております。
即ち、生まれた瞬間に見た鳥を母と思い、生涯慕い続ける偉大な性質がその答えです。
生まれた瞬間に見た鳥がお友達として決定します。
我々人間みたいにお友達を見つける苦労が無くてよいですね。これ本当。



ミーちゃん



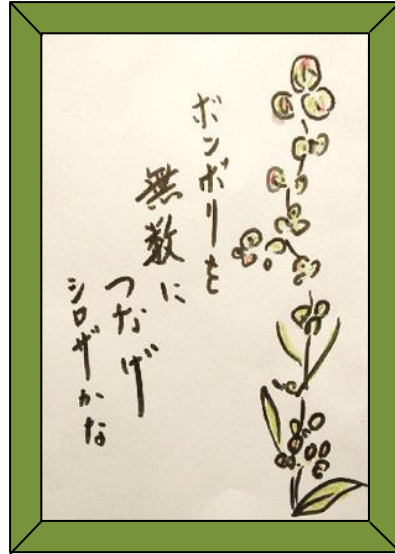
ぼんぽこ

スズメさんに聞いたよ。「お母さんに似てる鳥さんのところへ行って、こんにちはって言うの。だけどまちがって大きい鳥さんのところへ行くと、食べられちゃうから気を付けてね(怖！)木の枝でダンスをしてる鳥さんにも聞いてみた。「マイコドリです、こんにちは。こうやってダンスをしてお友だちがやって来るよ。」だって。

こあじろ あ・ら・か・る・と

森を巡る逸話を不定期で 宮本美織 記

10月9日 橋、宮本、松原で第4回交流会の下見と当日の実施計画の作成、宮本は鼻水を理由に小雨になったけれど森への散策はパス。絵手紙のサンプルを描きながら、漁港で待機



橋さんのメールより

・当日実施要項を作成し、11:50から森へ入りました

足もとにはミゾソバとミズヒキが花盛り、クヌギの実が色鮮やかです。カントウヨメナの薄紫は楚々として、どこまでも地味なヤブミョウガ、濃紫の実がきれいだよ。

離れたところに白い花をつけているのはハリギリの木でしょうか。

ヤナギテラスは意外に植物との距離が遠く、絵手紙を書くのは難しそうです。少し先へ行くとガマやタコノアシが目の前に見られますのでヤナギテラス周辺に散らばって描くことになると思います。

10月20日 皇后陛下の82歳の誕生日によせたお言葉のTVニュースをちらと見ていたら、小網代の森と思しき森にお二人の姿が…。チゴガニも映り、きっと小網代の森！ 宮内庁のHPで調べてみたら、葉山御用邸滞在は7月11日(月)から14日(木)、両陛下のご日程の所を見たら、7月13日の水曜日には何も書かれていない。この日が暑い日だったらこの日に訪問されたのか。

平成24年4月27日、第6回みどりの式典で緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議の代表が受けた際、両陛下に直接、来森を訴えたと聞いています。

宮内庁のHPの「おことば 記者会見」の所から森関連の部分だけ掲載させていただきます。

「ごく個人的なことですが、いつか一度、川の源流から河口までを歩いてみたいと思っていました。今年の7月、その思いがかない、陛下とご一緒に小網代の森で浦の川のほぼ源流から海までを歩くことができました。流域の植物変化、昆虫の食草等の説明を受け、大層暑い日でしたが、よい思い出になりました。」

25年くらい前のゴルフ場問題が三浦市全体を騒がしくしていた頃、三浦市長の所へ天皇陛下かまたは側近の方からか、電話で「あそこはよい所ですね。」の一言があったという噂があった。

そのもっと前、今上陛下は小網代湾の奥で「ハゼ」を採取して研究されていたとか。湾奥の岸にあった別荘の主、近藤さんにその話を伺ったことがある。小網代の森保全はどなたにも喜んで貰えている。

10月23日 第4回交流会で

- ・旅蝶のアサギマダラが入り口の長い階段の下でひらひら。以前にヒョドリジョウゴの蜜を吸いに来ていたのを見ていたことがある。丹沢の山中でも。キジョランを幼虫が食草とするらしいので、三浦半島も通りの資格あり。
- ・浦の川を堰きとめた杭ごとにエノキタケの群生。まるでこの川のように。以前にもこの辺りでエノキタケを良く見た。ある人に言わせると店で見ているエノキタケはもやし状態のもので、本物の姿はこちらなのだそう。昔、一かけ頂いて、吸物椀一杯の良い香りと味を確かめたことがある。
- ・すずめ蜂 女王のバトル 行司の手 山之辺の道でオオスズメバチの女王と思われる2匹がお互いを食おうとするかのような上へ下への激しい動きをしていた。暫く見ていたが、踏まれてしまう前に2匹を空中へ移動させてやった。蜘蛛の糸ならぬ「蜂の針」の物語が始まるか。
- ・ヤナギテラスの近くのジャヤナギの幹にヒモミノガが健在。 ふらふらと 幹にとりつき ヒモミノガ
- ・上流のミゾソバの花がやや白く、下流に行っても白く、ピンクの花の大群落という季節は過ぎてしまったのか。

今日の小網代 10月23日(日) 浦の川には、三浦市水道の送水管が埋設されている。露出している太い鉄管上に、一瞬グロを巻いている蛇かと思った。森中ではタヌキ、イタチ、ウサギ、アライグマ等の落し物を見ている。これは消化の悪い木の実や種子が混じって無いので、進入禁止のペット犬のモノと考えられる。源流では、中国産のガビチョウが声高く鳴いていた。 「S」

くらぶグッズのご紹介

●●●●● 2017 カレンダー予約受付中 !! ●●●●●



6枚組 1部 600円
送料 82円/1部

お問合せはこちらから 046-889-0067 (仲澤)
info@mori-club.com (高橋)

お振込みはこちらです
郵便振替 00290-6-137203
こあじろの森くらぶ

*振替料のご負担をお願いします

●●●●● 植物画絵はがきのご紹介 ●●●●●

A セット 小網代と三浦半島の野草① 10枚 1,000円



ヌスビトハギ
イヌタデとエノコログサ
アケビ
ツククサとマルバツククサ
ノイバラ ホタルカズラ
フキノトウ ノササゲ
キチジョウソウ
ガガイモ

B セット 小網代と三浦半島の野草② 10枚 1,000円



キキョウ ノブドウ
ケイワタバコ ニリンソウ
センボンヤリ
シロヤマブキとヤマブキ
ザイフリボク ノシラン
ミヤコワスレ クロタネソウ

*クロタネソウは野草ではありません

C セット 園芸種と三浦半島の野草 10枚 1,000円



シュウメイギク ヒメヒマワリ
サクラ イチジク
バラ cv クレイジートウ
ブルースター ケマンソウ
パンジー スイートピー
ウサギサボテン

D セット 園芸種と野菜① 10枚 1,000円



コスモス アジサイ
バラ タマネギ
クレマチス
リュウカデンドロン
センニチコウ
パプリカ セイヨウアジサイ
バラ cv ヌーベルバーグ

D セット 園芸種と野菜② 11枚 1,000円



ミニハボタン
サンダーソニア
アサガオ ヤマブキ
ストック チューリップ
クレマチス ガーベラ
ポインセチア
トウモロコシ 不明の植物

●絵はがきはすべて、お得な送料無料！

さらに各セットに1個、もれなく手作り額縁プレゼント。



植物画絵はがき専用額縁と、
セットには未収録のはがき
「イヌタデとリンドウ」をプレゼント
します。

*額縁の色はお選びいただけません

こあじろの森くらぶ NEWS

◆スタッフの活動

- 09.25(日) 10:00～ スタッフ会議(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
午後 通信 No.4 印刷・発送
- 10.09(日) スタッフミーティング 交流会下見(10:00三崎口駅前集合)
- 10.23(日) 第4回交流会 一句ひねろか絵手紙描こか、なんでもかんでも虫眼鏡
15:00～ スタッフ会議(於 ひげ爺の栖)
- 11.13(日) 10:00～ スタッフミーティング(於横須賀市立 市民活動サポートセンター)

●●● ご寄付ありがとうございます ●●●

大川須美さま、岸修さま、西川次代さま、久水健史さま、藤崎英輔さま、
別府史朗さま、松森 繁さま、匿名希望 (五十音順)
以上の皆さまにご寄付をいただきました、大切にに使わせていただきます。

●●● 第5回交流会の予定 ●●●

海の鳥、森の鳥、なんちゃって…ちゃんとした鳥見会

三崎口駅前からバスに乗って、シーボニア入口で下車。いつもと逆コースを辿って漁港からエノキテラスへ向かいます。漁港では海鳥を、エノキテラスでは森の鳥を観察するのが第一目標。
ミサゴとかダイサギとかのビッグスターが見られたら、ラッキーな一日になるでしょう！

- 開 催 日 : 2017年2月5日(日)
*荒天の場合は中止します・予備日2月26日(日)
- お持ち合わせ : 10:00 三崎口駅前 14:00 頃散会
- 講 師 : 漁港・須藤伸三氏、エノキテラス・別府史朗氏
- 持 ち 物 : お弁当、飲み物(あれば双眼鏡、図鑑など)
- 対 象 : 「こあじろの森くらぶ」会員とそのご家族、ご友人
- * 保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。
- * 寒さの厳しい季節です、防寒対策を十分にお仕度ください。

こあじろの森くらぶ通信 No.5

2016年11月27日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地: 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先: info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : <http://www.mori-club.com>

年会費: 1000円(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203